

## 国際コメ価格高騰のメカニズム

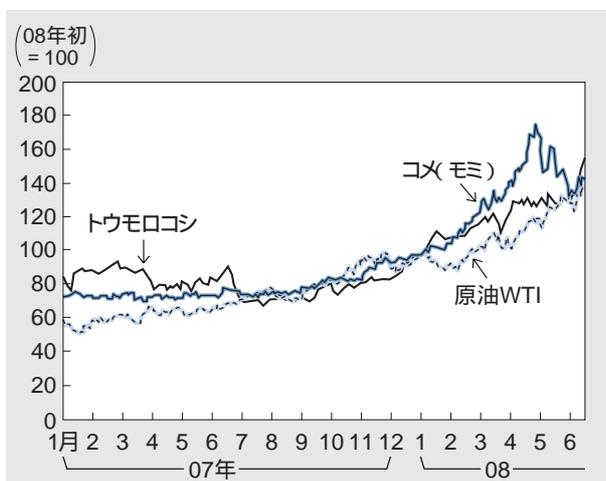
主任研究員 室屋有宏

### 1 今年に入り急騰した国際コメ価格

コメ（長粒種）の国際価格は今年に入りベトナム、インドなど主要輸出国が輸出制限を課すなどの動きを材料に急騰し、4月のピーク時には08年初に比べ80%近く上昇した（シカゴ取引所価格）。その後、タイ、ベトナム等の雨季作の作況が良いとの見通しやベトナムが7月以降の輸出制限の解除を表明したこと等から、過熱していた相場はピークから20%程度調整したが、依然歴史的な高値圏にある（第1図）。

足下の調整局面では、価格高騰に対して売り手・買い手とも取引を手控える動きが顕著である。コメ輸入国はアジア、アフリカの途上国が大半で、多くの国にとって現状価格は高過ぎ、アフリカを中心に所得面から輸入が既に困難な国もでている。一方、輸出業者も現物価格が高騰したことから、輸出契約を遅らせる戦略を取っている。

**第1図** コメ、トウモロコシおよび原油(WTI)価格の推移(シカゴ取引所価格:2008年初=100とする指数)



資料 Bloombergより作成

### 2 95～96年時との比較

国際コメ相場の高騰は95～96年にも発生したが、今回のケースと比べると大きな相違点もみられる。

一番大きな違いは、95～96年時は原油価格(WTI)がバレル17ドルから25ドル前後への上昇にとどまっていたのに対し、今回は原油価格の騰勢が大幅かつ長期な点である。また、今回はバイオ燃料向けの穀物需要や大規模な投機資金の流入も加わって、農産物価格は全般に大きく上昇している。

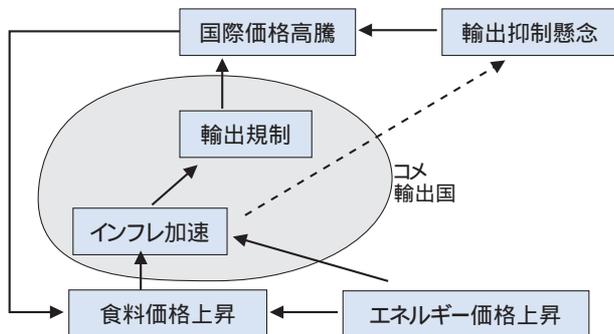
代表的なタイ米の輸出価格で比較すると、95～96年はこの間にトン当たり200ドル前半から300ドル近くまで上昇したが、今回は08年初からだけで2倍以上に高騰し一時1,000ドルを突破している。また、今回は、コメとそれ以外の穀物価格、原油価格との連動性がより強くなっている。

### 3 価格高騰のメカニズム

今回のコメ価格高騰では、原油価格と穀物価格の上昇連鎖が国際相場を介してコメ輸出国に波及し、それが国内的なインフレを加速させ、再びコメ輸出価格の上昇につながる循環メカニズムが大きな特長といえよう（第2図）。

原油価格の上昇は、石油製品価格に限らず肥料等農業資材の上昇に直結する。またコメはアジア途上国のほとんどで主食として生産・消費されており、コメ価格上昇が食料価格及び生計費上昇に与える影響度は非常に大きい。さらにコメの場合、貿易量、貿易率

**第2図** 国際コメ相場上昇の波及メカニズム



資料 筆者作成

(生産量に対する輸出割合で7～8%)とも小さいため、需給のわずかな変化が大きな価格変動につながりやすい性質がある。

多くのアジア途上国で物価上昇は激しくなっており、例えばベトナムの消費者物価上昇率は足下で前年比25%に達している。今回のコメ価格高騰では、タイに次ぐコメ輸出国ベトナムが輸出制限に踏み切ったことが大きな引き金となったが、輸出制限は対外市場とのリンクを部分的に遮断してでも、国内コメ価格の上昇・インフレを抑制したいとのねらいがあったと理解できよう。

**4 国際的需給も不安定化**

今年に入ってからのコメ価格高騰の要因としては、世界的な資源価格インフレの波及が、投機的マネーの流入も伴ってコメに伝播したという構図とともに、コメの国際的需給が不安定化している面も否定できない。この点は、95～96年の相場上昇と共通した要因として存在していると考えられる。

コメの供給では、単収の伸び鈍化、作付面積拡大が困難、農業への公的投資(灌漑施設、技術開発等)の縮小等がみられる一方で、需要側では、地域的にはアフリカのコメ需要の持続的な高まり、アジアを中心と

した人口増加要因、所得上昇に伴う需要増などが指摘できる。こうした需給構造の不安定性を改善していくには、公的投資を伴った中長期の取組みが必要である。

**5 短期的に相場は軟化するが大幅下落は予想しがたい**

今後のコメ相場の短期的な方向としては、これから明らかになってくるタイ、ベトナムの作柄、ベトナムの輸出規制解除後の動き、タイ政府による政府在庫取崩しおよび支持価格(モミを担保に政府系銀行が融資する際の基準価格)水準などがポイントとなるが、現時点では市場関係者の多くが相場はもう一段軟化するとの見方をしている。

しかし、今回の相場高騰の構造を考えると、世界的な商品価格の上昇連鎖のなかで、コメだけがデカップリングされてくる可能性は短期的には小さいと予想される。

やや長い視点では、コメ価格の上昇が生産者の投資・生産性上昇のインセンティブにつながるかが重要であろう。タイのように中進国化した国では、価格支持政策が農民に一定の所得改善をもたらす制度が整備されている。しかし、ベトナムでは(またタイでさえも)多くの農民は債務を抱え、肥料等の生産コスト上昇分を転嫁できずに庭先で集荷業者等にコメを売り渡すような状態にあり、国際価格の上昇の恩恵にほとんど浴していないといわれる。

国際的なコメ価格高騰は、ごく少数者の利益の一方で、膨大な人々の生活に困難をもたらし、主食の生産・消費という国民の基本的権利を突き崩していく懸念をはらんでいる。

(むろや ありひろ)